

◎「ウクライナ支援」 News Letter(44)

2025年11月21日

ミッション・宣教の声

主にある皆様へ

いつも主にあって、祈りご支援くださり感謝します。船越宣教師から近況の知らせが入りましたので送ります。これから厳しい冬に入りますので、ウクライナ情勢は特に厳しくなります。どうぞ、彼らの祈り必要を覚えてください。船越宣教師夫妻は、伝道と被災者支援に忠実に力を注いでおられます。どうぞ、続いて祈りに覚えてください。

皆様の上にも、主の祝福がありますよう祈ります。

黒田 禎一郎

愛する皆様へ

いつもウクライナのことを覚え、祈り続け、支え続けてくださっている皆様に心、から感謝をいたします。本当にありがとうございます。

2022年2月24日にロシアによるウクライナ全面侵攻が始まってから11月24日で3年9ヶ月になります。太平洋戦争が3年9ヶ月続いたことを思うと、ウクライナ戦争がどれほど長く続いているかを知ることができますが、ロシアは侵攻をやめる気配を見せていません。今年も厳しい冬が近づくにつれて、ロシア軍によるウクライナ全土への電力インフラ攻撃は激しさを増していて（10月だけでも5500発以上のミサイルと無人爆撃機がウクライナに向けて発射されました）、オデッサでも着弾、火災、停電が頻発しています。

そして東部ドンバス方面では激戦が続き、要衝ポクロフスクが陥落の危機に置かれていると報道されています。東部戦線では今日も多く兵士たちが死傷しています。また、ヘルソンではロシア軍による無差別砲撃とFPVドローンからの手榴弾投下による民間人や人道支援活動者たちへの攻撃が激化しています。（私たちの教会に来ている避難民の夫婦のヘルソンの家は先週、三度目の爆撃を受けました。）

また、ウクライナ国内での徴兵が強化されており、私たちの周りでも数名の男性たちがこの数か月間で徴兵されました。また、2022年2月の全面侵攻が始まった際には18歳以上60歳以下のウクライナ人男性の出国が制限されましたが、今年8月に出国制限の年齢が「22歳以上」に引き上げられたことにより、その年齢に達しない男性たちの多くが「22歳になったら出国ができなくなる」と考え、今のうちにと出国を始めました。このため、若い男性の数はさらに少なくなっています。

また、無断離隊者（脱走兵）の数も増えています。今年の9月までは一回目の無断離隊に関しては「大目にみる」ことになっていました（無断離隊を行った兵士が自主的に軍に復帰した場合、それが一回目の離隊であれば刑事責任は問われない）。しかし9月以降は初回でも有罪とされることになったため、無断離隊者たちは社会の中で身を隠すように生活をしています。当然、その家族たちも複雑な立場に置かれることになります。負傷兵の数も増えています。私たちが訪問している病院でも体の一部を失った兵士たちが次々と搬送されて来ています。戦死した兵士の家族の数も増加の一途を辿っています。長期化する戦争が生み出している悲しい状況が、社会のあらゆる場面に顕在化しています。

11月16日（日）「戦没兵士家族を励ます会」を行いました。今回は50家族が参加し、食糧物資の支援とともに、交わりの時間も過ごし、みな、温かい時間を過ごすことができました。そこから教会へと導かれ、イエス・キリストへつながる魂が起こされることを切に願っています。ぜひ、続けてお祈りください（12月にもこの会を行います）。現在、病院での負傷兵の訪問は月曜日、火曜日、土曜日に行っています。（今週、特に印象的だったのは、3年間もロシアで捕虜にされていた若者に会ったことです。彼は何度も拷問に遭い、顔には多くの痛ましい傷がありました。悲しいことに彼は私に「自分は、神は信じない」と強い口調で言いました。しかし「祈ってもいいですか」というと「反対はしない」と言ってくれ、彼のために祈ることができました。彼は黙って祈りを聞いていました。）そこで出会う兵士たちに、キリストの愛を伝えることができるように、どうか続けてお祈りください。

ウシンスキ大学での日本語の授業（火曜日と木曜日）も継続中です。授業は大学で行われていますが、先週から土曜日に教会で「補習授業」が始まり、「補習授業」の後に少しずつ学生に福音をシェアしていきたいと願っています。私たちとともに日本語を学んでいる大学生（15名）たちの救いを覚えてお祈りください。

月に2回（日曜日の夕方）「男性会」を行っています。戦時中の男性たちが置かれている立場は非常に複雑なものがあります。そのような中で男性たちが主の約束のことばを中心に集まり、励まし合う場は非常に重要です。この「男性会」の祝福をお祈りください。

引き続き、HOPE ニコライエフ、HOPE ヘルソン（ポサド・パクロフスケ）も継続しています。みなさまからの尊いご支援に心から感謝しています。これらの働きが続けて用いられるように、お祈りください。現在、日曜礼拝では『荒野での決断』というシリーズで聖書の学びを続けています。イスラエルの民が荒野での40年間の放浪の旅の中で、さまざまな試練や困難を通してどのような反応をしたか、それらの事例から、戦争という状況下にあるウクライナのクリスチャンが選択すべき態度の重要性を学んでいます。

水曜集会では引き続き「ヨハネの福音書」を学んでいます。イエス・キリストがどのようなお方なのか、今まで気づかなかった真理が毎回、教えられる祝福にあずかっています。そこに集っている一人一人がキリストの弟子として大きく成長するように、続けてお祈りください。

ウクライナのために、そしてオデッサでの宣教の働きの前進のために、覚え続けて、祈り続けてくださっている先生ご夫妻、KIBC みなさまに心から感謝をしています。主の祝福が豊かにありますように、心から祈っています。

船越真人・美貴

祈りの課題

1. 「ウクライナ・ロシア戦争」が停止・終息しますように
2. 戦争犠牲者が最小限にとどまりますように
3. 苦難の中で、キリストの福音が宣べ伝えられますように
4. 教会(集会)指導者に、神の助けと導きがありますように
5. 日本からの支援献金が豊かに用いられますように。
6. 船越宣教師家族が、日々危険な中でも主に守られますように。

※ 「ミッション・宣教の声」の オンライン献金先は次です。

<https://vomj.jp/free-donation/>